

# 3月・4月の管理ポイント

冬の間に土壌が乾燥しています。界面活性剤を処理して土壌水分環境を整えましょう。また、今冬は暖かい日が多かったので、ベントグラスが活動し貯蔵養分が少なくなっています。栄養剤を処理して、糖・アミノ酸・ミネラルを補給しましょう。

## 生育期に向けて 土壌水分環境を整えましょう レボ (REVO)

生育適期が近づいてきました。ベントグラスが生育しやすい土壌水分状態を整えましょう。

冬の間に界面活性剤を処理した場合は、引き続き定期散布を続けましょう。

冬の間に界面活性剤を処理していない場合は、土壌が乾燥してドライ症状が発生しやすい状態になっているため、界面活性剤を多めに(または多回数)処理して撥水を軽減させ、根圏に水を行き渡らせましょう。

レボは表層土壌の水分を低めに保つので土壌中酸素の割合が高くなり根が生育しやすい土壌環境を作ります。

使用量：2ml/m<sup>2</sup>/月 散布水量：200ml~500ml/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月に1回~2回

## 乾燥・過湿から グリーンを守りましょう プライマーセレクト

土壌全体に水を行き渡らせ適度な水分を保ちつつ、余分な水の排出を促すことで、ベントグラスが生育しやすい土壌水分状態を維持します。レボより土壌表層の水分を少し高めに保ちます。

使用量：2ml/m<sup>2</sup>/月 散布水量：200ml~500ml/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月に1回~2回

## ドライの予防と治療 ハイドレーターG

粒タイプの界面活性剤資材です。ドライスポットの予防と治療にご使用下さい。土壌の乾燥が気になる部分に直播出来ます。1mm程度の粒剤なので、粉が舞いにくく散布しやすい剤です。安全性が高いので安心してご使用頂けます。花壇や鉢植えにもご使用頂けます。

グリーン・ティー 使用量：ドライスポットの治療 5~20g/m<sup>2</sup>/週 予防10g/m<sup>2</sup>/月

バンカー周り・クラブハウス周辺の芝地等 使用量：5~10g/m<sup>2</sup>/月

花壇・鉢植え・プランター 使用量：約10Lのプランターに小さじ1/2/月

## タンクミックスにお勧め グリーンシナジー

根圏土壌の隅々まで水を届ける働きがあるので、肥料、ミネラル、糖、アミノ酸などと混用すれば、水と一緒に養分も根圏の隅々まで行き渡ります。与えた養分を無駄なくベントに届けるには、グリーンシナジーのご使用がおすすめです。経済的な資材なので、散布の度にご使用頂けます。

使用量：1~2ml/m<sup>2</sup>/月 散布水量：100ml~1ℓ/m<sup>2</sup> 使用方法：資材の散布時にタンクミックス

## 光合成だけでは 足りない養分を補いましょう グリーンメカ

ベントグラスの活動が始まり大量のエネルギーが必要になります。しかし、気温が低いと光合成スピードが遅く、必要量のエネルギーを作り出すことが出来ません。足りない分は貯蔵養分から補填されますが、使えば使う程ベントグラスはやせ細ってしまいます。貯蔵養分を使い込む前に、糖・アミノ酸・ミネラルたっぷりのグリーンメカを処理し、足りないエネルギーを補いましょう。

使用量：2~10ml/m<sup>2</sup> 散布水量：1ℓ/m<sup>2</sup>

## 冬の間に溜まったサッチを 除去しましょう サッチ・マネージャー

冬の間にサッチが溜まっています。サッチ・マネージャーで分解を促進させましょう。

本剤は、自然界に存在する微生物の中からサッチ成分に対して優れた分解能力のある有用菌を選抜した微生物資材です。様々な土壌環境に適應できるように、16種類の有用菌(乳酸菌11種、枯草菌3種、酵母菌2種)で構成されています。製剤1g当たり約400億個の菌配合で土壌中でも安定した効果が期待できます。

使用量：ラフ・FW 0.1~0.2g/m<sup>2</sup> グリーン 0.5g/m<sup>2</sup> 散布水量 0.2~0.5ℓ/m<sup>2</sup>

## 病害予防 グリンオキシラン水和剤

グリンオキシランは有機銅とキャプタンが有効成分の防除剤です。更新作業後の保護殺菌としておすすめです。着色剤入りで希釈液が緑色なので、散布した後の葉が黄色くならず、美観を損ないません。

使用量：ベントグラス 希釈倍率300~500倍 1~2ℓ散布/m<sup>2</sup>

日本芝 希釈倍率500倍 1~2ℓ散布/m<sup>2</sup>

今冬は、桜が狂い咲きする程の暖冬でした。ベントグラスが本来は生育停滞する時期にたくさん活動し、貯蔵養分を使い込んでしまっています。いつも以上の栄養補給を心掛けた管理をし、本格的な生育期に備えましょう。

## ● 暖冬明けのベントグラスの状態

### 栄養不足

**貯蔵養分が例年より少ない**  
今年暖冬だったので、ベントグラスが例年より長時間活動して、貯蔵養分を使い込んでしまっています。

**光合成で作り出される養分が少ない**  
光合成は温度の影響を受ける反応  
約10℃以下：光合成速度が遅い  
約10 - 25℃：徐々に速度が速くなる  
約25℃以上：速度が遅くなり停滞する  
3月は寒暖の差が激しく、暖かい日は光合成速度が速く、養分が十分作られるが、冷え込む日は、光合成速度が遅く、少しか養分が作られない。

**養分が根圏まで辿り着けない**  
土壌が撥水していると、水が根圏全体に行き渡らないため、養分を与えても根まで辿り着けず、植物が吸収できない。

### 水ストレス

- 冬場は空気が乾燥している → **土壌が乾燥しやすい**
- 冬場は散水、界面活性剤の処理回数や量を減らす傾向あり → **撥水が強くなりやすい**

撥水が高い土壌

乾燥部分にある根 萎れて枯れる

過湿部分にある根 根腐れする

水は土壌に浸透し難くなり浸透しても水みちだけ通る  
↓  
土壌中の水分分布にムラが生じる

湿潤した土壌に触れている一部の根しか水や養分を吸収できない

衰弱しています

ストレス

栄養不足

## ● ベントグラスが生育しやすい環境を整える

### 暖冬明けの管理

足りない養分を補給する

肥料 NPK

糖

ミネラル

アミノ酸

生育不良  
貯蔵養分が少ない

ストレス

栄養不足

生育しやすい土壌水分環境を整える

- 根圏に水や養分が行き渡るようにする
- 全ての根が吸収できるようにする
- 四方八方どこにも生育できるようにする

### 生育しやすい環境

ストレスが少ない

生育良好  
貯蔵養分たっぷり

生育しやすい土壌水分環境

適度な養分

- 土壌水分環境が整っている
- 養分が吸収できる状態で適量ある
- ストレスが少ない

上記条件の揃った生育しやすい環境なら  
生育期に丈夫な根が育つ

**おすす** 界面活性剤を処理すると、土壌水分環境が整い、処理した養分が“無駄なく”“ムラなく”ベントに吸収されます。栄養剤を処理すると、不足しがちな糖・アミノ酸・ミネラルを効率的に補給できます。

本格的な生育期が来る前に、ベントグラスが生育しやすい環境を整えておきましょう  
「足りない養分を補給する」「土壌水分環境を整える」「ストレスを取り除く」